

【日野郡：奥大山江府学園 陸上運動領域：走り幅跳び（高学年）】

参 加 者：日野郡小体研役員 7名

指導助言：体育保健課 綱本 大介 指導主事

○協議の柱

グループ活動の中で協働的な学びが達成されていたか。
ねらいを達成するための活動や支援になっていたか。

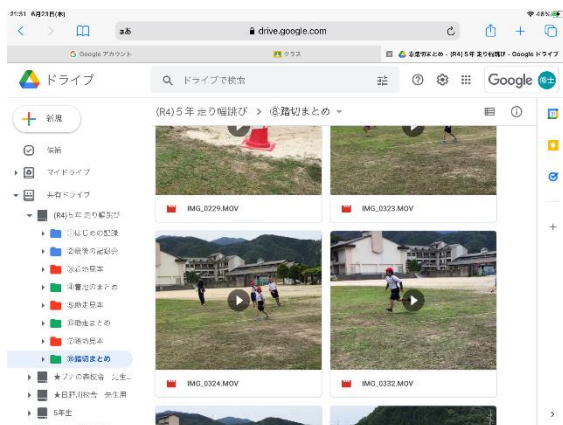


○成果

- ・準備運動のアナログゴンでは、じゃんけんを使った楽しい活動を行い、児童の心がほぐれ楽しい気持ちで活動に入ることができていた。
- ・タブレットで撮影し動画を見ながら、グループで進んで対話する様子が見られた。
- ・周りで見ている児童が助走のリズムを声に出している場面や、跳んだ児童に対してアドバイスをする場面が見られた。

○課題

- ・本時の学習課題の焦点化。
 - 本時は「力強い踏み切り」を身に付けたい場面だったが、児童の見る視点やアドバイスの大半が助走のリズムや踏み切り位置に関するものが多かった。
 - 達成したいこと、意識したいことを焦点化することで、する側も見る側も同じ意識で取り組み、対話の内容も本時のねらいに迫ったものに近づくのではないか。
- ・児童が体育授業に浸り「できた」「できてるよ」という発言が児童から出るようにするにはどうすればよいか。
 - 学習課題を焦点化の中で、映像としてのゴールイメージ、感覚としてのゴールイメージをそれぞれの児童が持てるように工夫することが必要ではないか。



撮影した動画を共有ドライブに保存し、児童はふり返し、教師は評価に活かす。



撮影した動画を見ながら話し合う様子。